

令和6年度 教育行政点検評価シート

《令和5年度の努力目標（取組事業）》

教育総務課・学校施設室	1ページ から 7ページ
学校教育課	8ページ から 15ページ
給食センター	16ページ から 16ページ
生涯学習課（中央公民館含む）	17ページ から 20ページ
文化財課	21ページ から 29ページ
上野図書館	25ページ から 26ページ

教育総務課・学校施設室

所 属	施 策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和5年度の取組内容)	指 標		決算額 (千円)	方向	内部評価	整理 番号	評価委員の意見
					令和5年度実績値	令和5年度目標値					
教育 総務課	子 ど も た ち が、 未 来 に 夢 や 希 望 を 持 て る	1 児童生徒の支援	奨学金等支給経費	高等教育機関での教育機会を支援し、社会に貢献する人材を育成するため、奨学金を希望する高校生及び大学生等に支給しました。 伊賀市奨学金 (新規)56人 (継続)46人 計102人 支給額:7,692,000円 伊賀市同和奨学金 (新規)8人 (継続)22人 計30人 支給額:3,312,000円 伊賀市ササユリ奨学金 (新規)2人 (継続)5人 計7人 支給額:1,680,000円 合計支給額:12,684,000円	年間継続受給率: 100%	年間継続受給率: 100%	12,848	改善	教育基本法第4条及び学校教育法第19条に、「経済的理由によって、修学が困難な者に対して、奨学の措置を講じなければならない。」としており、市独自の奨学金制度を維持している。受給者の奨学金の主旨理解や社会経済情勢による困窮世帯の増加等により、制度の見直しを引き続き検討していく。	414	
			遠距離通学者等通学経費(小学校)	通学費負担の軽減 ・上野北小学校:三重交通バスにて登下校する遠距離通学児童の通学費補助(全額負担) ・柘植、島ヶ原、大山田小学校:行政バスにて登下校する遠距離通学児童の通学費補助(全額負担)	なし (経費負担軽減を目的としているため)	なし (経費負担軽減を目的としているため)	1,058	改善	市内の小学校において、市町村合併前からの制度を継続しており、学校統合協議による不均衡も生じている。学校みらい構想検討委員会において、通学方法及び費用負担について検討する。	436	
			遠距離通学者等通学経費(中学校)	通学費負担の軽減 ・島ヶ原中学校:行政バスにて登下校する遠距離通学生徒の通学費補助(全額負担) ・大山田中学校:三重交通バスにて登下校する遠距離通学生徒の通学費補助(全額負担) ・青山中学校:行政バスにて登下校する遠距離通学生徒の通学費補助(全額負担) ・崇広中学校:伊賀鉄道にて登下校する遠距離通学生徒の通学費補助(定期券購入費の4割) ・霊峰中学校、大山田中学校:自転車にて登下校する遠距離通学生徒の通学費補助(年額3,600円) ・阿山中学校:遠距離を登下校する生徒の自転車購入費の補助(上限20,000円)	なし (経費負担軽減を目的としているため)	なし (経費負担軽減を目的としているため)	4,130	改善	市内の中学校において、市町村合併前からの制度を継続しており、学校統合協議による不均衡も生じている。学校みらい構想検討委員会において、通学方法及び費用負担について検討する。	446	
			中学校クラブ遠征参加経費	三重県中学校体育連盟等が主催する体育大会及び三重県中学校吹奏楽連盟等が主催する文化行事への参加旅費を補助し、部活動の推進を図りました。 体育大会参加校 10校(実績 3,603,750円) 文化行事参加校 7校(実績 1,201,250円)	補助対象大会等への旅費に対する補助率: 86%	補助対象大会等への旅費に対する補助率: 90%	4,805	継続	生徒の大会参加の支援を継続し、クラブ活動の推進を図る。	452	

教育総務課・学校施設室

所 属	施 策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和5年度の取組内容)	指 標		決算額 (千円)	方向	内部評価	整理 番号	評価委員の意見
					令和5年度実績値	令和5年度目標値					
子 ど も た ち が、 安 心 し て 学 べ る	2	校区再編	委員会管理経費	教育委員会の円滑な運営に努めました。 教育委員会定例会及び臨時会の開催(定例会12回、臨時会2回) 教育委員による学校施設及び教育施設訪問を実施(4日) 教育行政評価委員会の運営(3回開催) 総合教育会議の開催(2回開催) 伊賀市学校みらい構想検討委員会の開催(2回)	教育委員会等の開催回数: 17回	教育委員会等の開催回数: 17回	3,829	継続	必要に応じた各種委員会を開催することができた。今後も、継続して進めてく必要がある。	412	
			事務局管理経費	教育委員会事務局の適正な管理に努めました。 廃校施設の管理 教育委員会所管施設及び備品の火災保険、損害保険加入 教育委員会所管公用車の自動車損害保険料支出 全国都市教育長協議会・三重県都市教育長会等の負担金支出	管理している廃校数(休校含む): 10校	管理している廃校数(休校含む): 10校	23,678	改善	小規模修繕対応会計年度任用職員は、処理対応の早さ、原材料のみでの修繕工事、によるきめ細やかな修繕対応ができており、非常に効果的であることから、増員も含め検討したい。また、民間提案制度等を利用し、廃校の利活用について検討を進める。	413	
			情報化教育推進経費	小中学校の情報ネットワークの保守管理業務を委託し、円滑な校務運営、児童・生徒の情報教育の充実を図りました。また、国が進めるGIGAスクール構想に対応するため小中学校に整備した学習用端末、ソフトウェア、モバイルWi-Fiルーター、ネットワークの保守管理業務を委託しました。	光回線整備率: 100%	光回線整備率: 100%	100,658	改善	故障が多くなってきている校務端末は令和6年12月末までに入れ替える。学習端末の物損保証期間が終了したため、予備機の活用も行いながら修繕を行う。	431	
			一般管理運営経費(小学校)	各小学校の状況に応じ、運営に必要な需用費、役務費、修繕費の配当を行い、健全な学校運営に努めました。また、市内小学校の管理運営経費として、燃料費、光熱水費等を支出しました。	小学校設置校数(休校中を除く): 18校	小学校設置校数(休校中を除く): 18校	182,557	改善	サーキュレーターや空気清浄機を備えることにより、効率的な換気を行うなど経費減に努めたが、引き続き、空調の温度設定を上げすぎる(または下げすぎる)ことのないよう適切に空調設備を使用し、経費削減に努める必要がある。	433	

教育総務課・学校施設室

所 属	施 策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和5年度の取組内容)	指 標		決算額 (千円)	方向	内部評価	整理 番号	評価委員の意見
					令和5年度実績値	令和5年度目標値					
			一般管理運営 経費(中学校)	市内中学校の管理運営のため、光熱水費、燃料費等を支出しました。 また、各中学校の状況に応じ、運営に必要な需用費、役務費、修繕料等の配当を行い、健全な学校運営に努めました。	中学校設置校数: 10校	中学校設置校数: 10校	93,407	改善	サーキュレーターや空気清浄機を備えることにより、効率的な換気を行うなど経費減に努めたが、引き続き、空調の温度設定を上げすぎる(または下げすぎる)ことのないよう適切に使用し、経費削減に努める必要がある。	443	
			スクールバス 運転管理及び 維持経費(小学 校)	直営、業務委託、行政バス利用者によるスクールバスの運行を行い、児童の安全な通学の確保に努めるとともに、市所有スクールバスの維持管理を行いました。 (直営運行) 友生小1路線、上野南小1路線、成和東小1路線、青山小1路線 (委託運行) 上野南小3路線、三訪小1路線、上野北小2路線、成和東小1路線、成和西小3路線、阿山小5路線、大山田小4路線、青山小4路線、島ヶ原小1路線(2学期～) (行政バス利用) 柘植小1路線、島ヶ原小1路線(1学期のみ)、大山田小1路線	登下校時における 事故件数: 2件	登下校時における 事故件数: 0件	113,428	改善	学校統廃合による運行路線の増加により、運行業務委託料などの経費が増加している。当該年度の運行状況と翌年度以降の対象人数等を把握し、走行ルート及び直営・委託路線数を最適化する。	434	
			スクールバス 運転管理及び 維持経費(中学 校)	直営、業務委託、行政バス利用によるスクールバスの運行を行い、生徒の安全な通学の確保に努めるとともに、市所有スクールバスの維持管理を行いました。 (直営運行) 上野南中2路線、青山中1路線 (委託運行) 崇広中2路線、緑ヶ丘中5路線、城東中2路線、上野南中6路線、大山田中1路線、島ヶ原中1路線(2学期～) (行政バス) 島ヶ原中1路線(1学期のみ)、青山中3路線	登下校時における 事故件数: 2件	登下校時における 事故件数: 0件	71,793	改善	運行業務委託料などの経費が増加している。当該年度の運行状況と翌年度以降の対象人数等を把握し、走行ルート及び直営・委託路線数を最適化する。	444	
			健康管理経費 (小学校)	児童の健康管理と健康増進を図るため、各小学校に校医、歯科医、薬剤師を委嘱配置し、健康診断をはじめ、専門医検診等を行いました。また、安全な学校環境保全のため、衛生検査として飲料水の水質検査等を行い、プール授業実施のため、プールの水質検査及びプール薬品の購入を行いました。 その他、各小学校の状況に応じ、保健室用医薬品の購入を行いました。	学校医・学校歯科 医・専門医による 検診実施率: 100%	学校医・学校歯科 医・専門医による検 診実施率: 100%	20,850	継続	安全な学校環境及び児童の健康管理及び増進のために必要な検診・検査等を実施することができた。今後も、継続して進めていく必要がある。	437	

教育総務課・学校施設室

所 属	施 策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和5年度の取組内容)	指 標		決算額 (千円)	方向	内部評価	整理 番号	評価委員の意見
					令和5年度実績値	令和5年度目標値					
			健康管理経費 (中学校)	生徒の健康管理と健康増進を図るため、各中学校に校医、歯科医、薬剤師を委嘱配置し、健康診断をはじめ、専門医検診を行いました。また、環境保全を図るため、飲料水の水質検査等を行いました。 各学校の状況に応じ、保健室用の医療品等の購入を行いました。	学校医・学校歯科医・専門医による検診実施率：100%	学校医・学校歯科医・専門医による検診実施率：100%	9,595	継続	安全な学校環境及び生徒の健康管理及び増進のために必要な検診・検査等を実施することができた。今後も、継続して進めていく必要がある。	447	
			学校管理用備品整備事業(小学校)	教育活動を円滑に行うため、複写機、印刷機のリースを行ったほか、児童用机・椅子の修繕・購入、その他備品の購入を行いました。	購入要望校への対応率：93%	購入要望校への対応率：60%	4,526	改善	利用不能となった備品の廃棄や、備品システムを活用した学校間での相互利用を行う。	438	
			学校管理用備品整備事業(中学校)	教育活動を円滑に行うため、複写機、印刷機のリースを行ったほか、生徒用机・椅子の修繕・購入、その他備品の購入を行いました。	購入要望校への対応率：89%	購入要望校への対応率：60%	3,988	改善	利用不能となった備品の廃棄や、備品システムを活用した学校間での相互利用を行う。	448	
			教材・教具整備費(小学校)	各学校の状況に応じ、図書、教材備品、理科教育施設備品、特別支援学級用備品の購入を行いました。	学校図書充足率：111.5%	学校図書充足率：100%	17,802	改善	学校図書については、すべての学校が図書標準を上回るよう継続的に充実を図っているが、図書標準を上回っている学校においても、継続的に図書の入れ換えを行う必要がある。	441	
			教材・教具整備費(中学校)	各学校の状況に応じ、図書、教材備品、理科教育施設備品、特別支援学級用備品、教育課程備品の購入を行いました。	学校図書充足率：120.4%	学校図書充足率：100%	13,538	改善	学校図書については、すべての学校が図書標準を上回っているが、継続的に図書の入れ換えを行う必要がある。	451	

教育総務課・学校施設室

所 属	施 策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和5年度の取組内容)	指 標		決算額 (千円)	方向	内部評価	整理 番号	評価委員の意見
					令和5年度実績値	令和5年度目標値					
		3 学校施設整備	教職員住宅管理経費	伊賀市教職員住宅の維持管理を行いました。 老朽化に伴うガスコンロや畳などの取替及び入退去に伴うカギの交換を行いました。	入居率:60%	入居率:100%	489	改善	遠距離通勤者や遠方から赴任する教職員に対する事業として継続したい。施設(設備)の老朽化が進んできているため適宜、修繕等を行い、施設の維持管理に努める。また、入居率向上のため、通常の年度末の募集に加え、年度途中においても募集する。	415	
			施設維持管理経費(小学校)	関係法令等に基づき、開校中の市内18小学校の施設について、保守点検や清掃、修繕を行いました。 保守点検は、空調設備、自家用電気工作物、遊具、浄化槽、ろ過機等にかかる保守点検を行うとともに、害虫防除や受水槽・高架水槽の清掃、剪定業務のほか、警備業務委託を行いました。施設の修繕として、空調設備の補修や水回り設備の補修、照明器具の取替、プールろ過機や雨漏り修繕などを行いました。	施設事故防止率:100%	施設事故防止率:100%	38,379	改善	児童の安全を確保し、良好な教育環境を保持するため、施設の管理及び補修等を実施しており、継続したい。修繕が必要な箇所が多いため、営繕作業員(会計年度任用職員)を雇用することで、迅速対応、経費削減及び学校との信頼関係が築かれており、この取り組みを拡大したい。また、保守点検等にかかる委託経費がかさんでいるため、他部署の施設と合わせて発注する。	435	

教育総務課・学校施設室

所 属	施 策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和5年度の取組内容)	指 標		決算額 (千円)	方向	内部評価	整理 番号	評価委員の意見
					令和5年度実績値	令和5年度目標値					
			施設維持管理 経費(中学校)	関係法令等に基づき、開校中の市内10中学校の施設について、空調設備、自家用電気工作物、浄化槽、遊具等にかかる保守点検を行うとともに、害虫防除業務、受水槽・高架水槽の清掃、剪定・草刈業務のほか、警備業務の委託を行いました。 施設修繕として、空調設備の補修や水回り設備の補修、照明器具の取り替えや、雨漏りの修理などを行いました。	施設事故防止率： 100%	施設事故防止率： 100%	22,143	改善	生徒の安全を確保し、良好な教育環境を保持するため、施設の管理及び補修等を実施しており、継続したい。修繕が必要な箇所が多いため、営繕作業員(会計年度任用職員)を雇用することで、迅速対応、経費削減及び学校との信頼関係が築かれており、この取り組みを拡大したい。また、保守点検等にかかる委託経費がかさんでいるため、他部署の施設と合わせて発注する。	445	
			施設改修事業 (小学校)	委託料として、成和西小学校他2校屋内運動場LED照明交換工事設計業務委託などを行いました。 施設改修として、上野西小学校空調設備更新工事、壬生野小学校 普通特別教室棟(東棟)トイレ改修工事、三訪小学校理科室他空調設備設置工事、柘植小学校屋内運動場LED照明交換工事及び市内小学校の遊具の更新などを実施しました。 また、成和東小学校高圧機器改修及び友生小学校の昇降機修繕などを行いました。	空調設備整備校数： 18校	空調設備整備校数： 18校	172,066	改善	小学校施設については、多くが築30年を超え老朽化が進んでいることから、施設を可能な限り長期に使用し、整備にかかるコストの抑制を考慮した学校施設長寿命化計画の実施計画に基づき、交付金を活用しながら適正な施設の改修を実施する。	439	

教育総務課・学校施設室

所 属	施 策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和5年度の取組内容)	指 標		決算額 (千円)	方向	内部評価	整理 番号	評価委員の意見
					令和5年度実績値	令和5年度目標値					
			施設改修事業 (中学校)	委託料として、大山田中学校大規模改修工事監理業務委託及び青山中学校大規模改修工事設計業務委託などを行いました。 施設の改修として、大山田中学校大規模改修工事、柘植中学校及び霊峰中学校の防火設備改修工事などを行いました。	空調設備整備校数： 10校	空調設備整備校数： 10校	560,927	改善	中学校施設については、多くが築30年を超え老朽化が進んでいることから、施設を可能な限り長期に使用し、整備にかかるコストの抑制を考慮した学校施設長寿命化計画の実施計画に基づき、交付金を活用しながら適正な施設の改修を実施する。	449	
			学校給食管理 経費	学校給食衛生管理基準に基づき、自校で給食を実施する7校(内中学校1校)を対象に、給食調理員の検便検査、調理場消毒を実施したほか、石鹼液、消毒アルコール、ペーパータオル等の衛生用品(消耗品)の配備や調理器具、施設の修繕を行うとともに、老朽化した保冷库や食器洗浄機などの備品を購入しました。 また、地産地消を推進するため、伊賀米や伊賀産菜種油を購入しました。給食センター配送校13校に教育活動(配膳)サポーターを配置しました。食育推進や保護者の子育て支援のより一層の具現化を図るために、令和5年度から小中学生の給食費を無償化しました。	自校方式における給食実施予定日での給食実施率：100%	自校方式における給食実施予定日での給食実施率：100%	163,378	継続	給食の安全性を保つための施設管理や衛生管理の指導を継続する。無償化に伴う保護者負担分について、継続的な財源を確保する。	484	

学校教育

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和5年度の取組内容)	指 標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	整理 番号	評価委員の意見	
					令和5年度実績値	令和5年度目標値						
学校教育課	子どもたちが、未来に夢や希望を持てる	1	学校マニフェスト	英語指導助手招へい経費	JETプログラムを通じてカナダ(1人)、アメリカ(1人)、オーストラリア(1人)からALT(中学校英語指導助手)を招へいし、計3人のALTが10中学校において英語科をはじめ各校の教育活動に参画しました。 また、小学校の英語授業においては、18小学校において小学校外国語指導助手を6人派遣し外国語活動を支援しました。 R5年度は帰国するALTがいなかったため、新規ALTも来日しませんでした。	中学校1クラスあたりのALT派遣日数: 9.0日	中学校1クラスあたりのALT派遣日数: 8.0日	2,595	改善	今後も、各校での打ち合わせの時間を十分確保しながら、ALTと指導者が連携した授業を展開することができるようにする。また小学校外国語指導助手とALTとが毎月話をする機会をとり、英語教育における情報交換や小中連携を意識した取組を進めていく。	420	
			キャリア教育推進事業	1.「自分発見！中学生・地域ふれあい事業」において、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施を制限していた中学生の職場体験活動は、すべての中学校(10校)で実施することができました。継続して、地域の方を講師として学校に招聘しお話を聞かせていただいたり、聞き取り活動も行ったりしました。また、小学校の体験活動についても、地域企業と連携した工場見学等を新たに加え、これまで通りではなく精選を行った上で実施することができました。これらのことにより、働いている方の思いに触れ、地域の産業について理解を深めるとともに、自分の将来について考えることができました。 2. 各学校における発達段階に応じた教育課程のあり方を研究しました。 3. キャリア・パスポートによる系統的なキャリア教育の推進を図りました。 4.「伊賀市キャリア教育研修会」を開催(1月19日)し、追手門学院大学の三川俊樹教授から、各校での「キャリア・パスポート」の実践をもとに、児童生徒の社会的、職業的自立に向けた指導の在り方についてご示唆いただきました。	自分の生き方や進路を深く見つけることが「大変できた」「できた」生徒: 86%	自分の生き方や進路を深く見つけることが「大変できた」「できた」生徒: 90%	2,515	改善	職場体験活動について、すべての中学校で再開することができた半面、事業所によっては、規模縮小や人員の減少によって、中学生の受け入れが不可となると見られ、積極的に中学生を受け入れてくれる事業所の情報など、学校間で共有できるようにしたり、教育委員会からも学校へ積極的に情報を発信したりしていく。今後、ICT機器を活用しながら、地元企業や地域人材との出会い学習、オンライン工場見学など、新たな取り組みを工夫しながら進めていく。	421		

学校教育

所 属	施 策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和5年度の取組内容)	指 標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	整理 番号	評価委員の意見
					令和5年度実績値	令和5年度目標値					
			外国人児童生徒支援事業	1. 初期適応指導教室(チャレンジ教室)を運営し、188日間、教室を開きました。 2. 「外国人児童生徒と保護者のための進路ガイダンス」を9月24日に実施しました。 3. 日本語指導者研修会を5月15日及び8月17日に実施しました。 4. 日本語指導コーディネーターを各校に派遣しました。 5. 巡回相談員(県費)を派遣しました。 6. 外国人児童生徒日本語補助員を配置しました。(小学校2人) 7. 教育相談、保護者への説明の際の通訳派遣、翻訳支援を行いました。 8. 日本語指導が必要な児童生徒を対象に漢字能力検定の検定料を補助しました。(受験者194人) 9. 市内小中学校に子が就学している保護者の学校、教育等に関する相談の通訳対応を電話やビデオ通話で行えるタブレットを学校教育課・上野東小・上野西小(以外は学校教育課より貸出)に配置し、学校との懇談や教育相談で不便を生じないよう外国語での相談ができる体制を整えました。委託先:株式会社スマートボックス	高校進学率:81%	高校進学率:90%	5,109	改善	日本語指導が必要な外国人児童生徒が年々増加しており、令和5年度の在籍率は全児童生徒数の5.8%を超える割合となっている。日本語の理解がほとんどできない児童生徒が突然編入してくることも少なくなく、初期の日本語指導から進路保障まで、切れ目のない支援体制の充実に努める必要がある。しかし、初期適応指導教室の利用は保護者の送迎が必要であることから、これまで利用することが難しいケースもあった。リモートによる日本語指導を活用しつつ、日本語指導ボランティア等の活用を検討していく。	422	
			人権同和教育推進事業	1. 各学校(園)において、伊賀市人権同和教育基本方針に基づいた研究課題にそって、研究テーマを設定し、人権・同和教育の研究と実践を行いました。 2. 幼稚園・小中学校全教職員で学校人権・同和教育部会を組織し、全市的に人権・同和教育の研究と推進を伊賀市学校人権・同和教育部会に委託しました。(伊賀市学校人権・同和教育部会研究事業) ①授業交流会(10月27日柘植小学校、11月10日青山中学校、11月14日上野西小学校、11月17日島ヶ原小学校) ②部落問題を考える小学生(11月28日参加者:児童57名)及び中学生の集い(12月5日参加者:生徒50名) ③教職員研修(人権・同和教育推進委員研修会6月19日、1月26日)など ブロック別研修会(Aブロック8月25日、Bブロック9月9日、9月29日、Cブロック5月26日) 研究大会等での報告(「せいかつ」実践交流会:青山小学校、三重県人権・同和教育研究大会:大山田小学校、上野東小学校、柘植中学校)	人権・同和教育の推進を「十分図れた」「図れた」学校数:28校	人権・同和教育の推進を「十分図れた」「図れた」学校数:29校	2,527	充実	人権同和教育は、伊賀市の学校教育の根幹にかかわるものであり、学校マニフェストの柱の一つと位置付け・取組を推進している。また、子どもを取り巻く状況においても差別事象やいじめ等が起きていることから「伊賀市人権同和教育基本方針」に基づき、学校(園)において今後も積極的に人権・同和教育を展開することは重要である。しかし、経験年数の少ない教職員が年々増えているため、連続形式や、経験年数を意識した研修会を実施する等して今までの教育実践を引き継いでいく。	423	

学校教育

所 属	施 策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和5年度の取組内容)	指 標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	整理 番号	評価委員の意見
					令和5年度実績値	令和5年度目標値					
			学力向上推進事業	1. 中学校1年生で標準学力検査(NRT)を実施しました。 2. 伊賀市学力向上プロジェクト委員会を開催しました。(9月21日) 3. 各校での学力向上アクションプランの作成・実行・評価・改善のサイクルを定着させました。 4. 標準授業時数の確保に努めました。 5. 「家庭学習・読書のすすめ」を作成し、小学1年生、中学1年生に配布しました。 6. 武庫川女子大学の森脇教授を招いて学力向上改善研修会を実施しました。(10月26日) 7. 教育アドバイザーを各校に派遣しました。(年間112回) 8. 中学3年生全員を対象に、実用英語技能検定を実施しました。 9. 郷土教育冊子『伊賀のこと』を作成し、研修会等で郷土教育を推進しました。	学力検査における市内中学校の平均点の全国比: 98%	学力検査における市内中学校の平均点の全国比: 100%	5,084	改善	児童生徒の学力の定着状況を把握・分析し、明らかになった課題を基に授業改善を行うとともに、学力向上プロジェクト委員会の機能を充実させ、教職員研修体制の充実に努める必要がある。また、ICT機器を活用した教育活動により、児童生徒一人ひとりに応じた教育を推進していく。令和5年度も昨年度に引き続き、小学校国語、小学校算数については全国比100を超えることができたが、中学校数学、中学校国語については全国比97.7であったことから、特にこの部分にかかわって授業改善等の手立ての強化をしていく。	424	
			特別支援教育充実事業	1. 教育支援員及び特別支援教育支援員(58人)を配置し、特別な支援が必要な児童生徒のニーズにあった支援を行う体制を作りました。 2. 児童生徒の正しい理解のために専門機関による巡回相談及び発達検査(68人)実施し、適切な支援につなげました。 3. 個々のニーズにあった指導・支援につなげるため、専門機関による就学相談(110人)を実施するとともに、全5回の教育支援委員会で審議(187件)を行いました。	教育支援員・特別支援教育支援員配置: 58人	教育支援員・特別支援教育支援員配置: 57人	688	改善	年々、発達に課題があり特別な支援を要する児童生徒は増加しており、児童生徒の教育的ニーズに応じた取組が進んできているが、より適切な支援が必要である。そのため、関係機関との連携により、巡回相談や発達検査等を行い、児童生徒一人ひとりの多様な課題に対応できるよう適切な支援体制の充実にめざす。また、通級指導をすべての学校で実施できる体制を整備する。	425	

学校教育

所 属	施 策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和5年度の取組内容)	指 標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	整理 番号	評価委員の意見
					令和5年度実績値	令和5年度目標値					
			生徒指導推進事業	1 各学校において、家庭訪問、巡視・補導、関係機関との連携・対応等の生徒指導活動に取り組むとともに、教育相談体制・生徒指導体制の不断の見直しを図り、問題行動等の早期発見、早期対応や未然防止に取り組みました。 2 スクールソーシャルワーカーを2人配置しました。 3 不登校やいじめの早期発見、早期解決を図るため、全小中学校で学級満足度調査(Q-U調査)を2回実施しました。 4 全学校にいじめ問題相談員を105人を配置し、地域においてもいじめ問題を相談できる体制を作りました。 5 生徒指導総合連携会議を開催し、伊賀市における生徒指導に関する組織づくりを図るとともに、各学校(園)において、関係機関と一体となって、多様な問題行動等の予防や解決と児童生徒の健全育成に向け、地域のネットワークづくりを踏まえた実践的な取組について、有識者を招聘するなど、学習する機会をもちました。(開催日:6月23日、8月4日、10月12日、11月13日) 6 伊賀市生徒指導サポート会議を12回開催し、関係機関や地域との連携を密にするとともに、生徒指導上の課題の未然防止・早期発見早期解決等を図りました。 7 いじめ問題対策連絡協議会を開催し、いじめ防止等に関係する期間及び団体が、いじめ防止対策において連携が図れるよう、それぞれの取組についての情報交換等を行いました。(開催日:7月18日、1月29日)	小中学校における問題発生件数: 31件	小中学校における問題発生件数: 0件	2,489	改善	子どもたちの心や人間関係は時々刻々変化しており、いじめ事案や不登校など、解消したと思われても再発する可能性もある。一人ひとりの子どもの声をきいたり、学校生活等での様子から子どもたちの状況を把握したりするとともに、関係機関と連携しながら問題行動等の早期発見・早期対応を図っていく。	426	
			地域とともに学校マニフェスト推進事業	1. 下記内容を必須として事業を実施し、各小中学校長が作成する「学校マニフェスト」の実現を図りました。 ・学力向上推進事業 ・人権同和教育研究事業 ・キャリア教育推進事業 2. 学校支援地域本部推進事業を受け、各校に学校支援地域本部を設置して、学校関係者や地域の団体、地域住民のボランティア、保護者等と連携・協働しながら、地域学校協働活動を実施するため、学校区単位の学校支援地域本部に補助金を交付しました。	「人の役に立つ人間になりたい」と思える児童生徒: 96%	「人の役に立つ人間になりたい」と思える児童生徒: 97%	11,779	改善	各小中学校が地域の協力を得て、「学力の向上」「人権同和教育の充実」「キャリア教育の推進」を進めることは、伊賀市が目指す教育の根幹であり、市民に望まれている。今後、学校運営協議会を中心に学校と地域がより連携を深め、学校マニフェストを推進することにより、さらに地域が参画していける事業に進化していく必要がある。そのため、学校運営協議会委員及び教職員を対象とした研修会を実施し、伊賀市の課題や校区の課題について連携を深め、学校と地域がより連携を深められるようにする。	427	

学校教育

所 属	施 策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和5年度の取組内容)	指 標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	整理 番号	評価委員の意見
					令和5年度実績値	令和5年度目標値					
			部活動指導者 配置促進事業	中学校の部活動において、専門的な知識や技術を有する人材を部活動指導員として、7中学校(崇広・緑ヶ丘・上野南・霊峰・阿山・大山田・青山)に配置しました。(延べ1260時間) 令和5年度は、部活動の地域移行に向けた体制整備(伊賀市地域クラブ活動連絡協議会規約、役員・事務局体制等)のため役員会等で協議を重ね、「伊賀市地域クラブ活動連絡協議会」(1月23日)を行いました。	なし (競技力の向上を目的としているため)	なし (競技力の向上を目的としているため)	2,299	改善	生徒及び教職員の双方にとって良い結果となる事業であるが、指導者の人材確保が難しい。そのため、関連部局及び学校と連携し、地域の人材に向けて周知を図ったり、各校のニーズを把握したりする。	428	
			教職員研究 研修経費	1. 部会別教育研究活動の充実を図りました。 2. 教職員研修の充実を図りました。 3. 研究指定校研究推進事業の充実を図りました。 ・委託先:上野南中・三訪小・柘植小・壬生野小「学校研究指定校研究推進委員会」(4校) ・また、成和西小・緑ヶ丘中・上野南中・上野西小・上野東小については、GIGAスクール構想の推進に向けた研究事業を行いました。	研究講座の参加 人員(延べ数): 1, 227人	研究講座の参加人 員(延べ数): 600人	42,037	改善	教職員の指導力向上が、子どもたちの学力をはじめとする能力や意欲の向上につながる。教師の指導力向上に役立てるため、また資質向上のために研修の機会を今後も提供していく。教職員の働き方改革が課題となる中、基本的に対面式で人数制限のない形での研修を行うが、研修会の内容に関わって、職場から参加できるような遠隔研修と、顔を見合わせて交流すべき対面研修のハイブリッドも検討していく。	430	

学校教育

所 属	施 策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和5年度の取組内容)	指 標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	整理 番号	評価委員の意見
					令和5年度実績値	令和5年度目標値					
			伊賀市教育研究センター管理運営経費	教育研究センターの管理運営 ・施設整備の保全管理を行いました。 ・学校教育及び社会教育関係者の研修等を49回開催しました。 ・研修等に伴う施設使用調整を図りました。 ・教職員、学校、地域連携の支援を行いました。 教育研究センター修繕 ・3階会議室2空調機移設工事 ・高圧機器更新修繕…中部電気保安協会指摘事項 ・屋内消火栓設備修繕及び故障個所調査業務…消防設備保守点検指摘事項 ・体育館誘導灯取替修繕 ・1階女子トイレロータンク取替工事	会議室使用延べ人数: 10,145人	会議室使用延べ人数: 11,000人	6,822	改善	伊賀市の教育研究の中核的施設である。近年、子どもたちの学習を保障するために特別な支援が必要となっている。そのため、各校へ巡回教育相談をおこなったり、保護者や地域の方に、子どもの教育課題の解決に向けた支援を受けられる施設であることをホームページ等を利用したりして、広く市民に周知をする。また、施設の老朽化に伴う、更新工事、修繕工事が必要となる箇所を選別し、計画的に予算を計上していく	432	
	2	児童生徒の支援	学校保健管理経費	小中学校在校生及び教職員を対象に健康診断を実施し、児童生徒・教職員の健康管理に努めました。また、小中学校に在籍する児童生徒の在籍中に発生した災害に対して給付を行うことにより、保護者の経済的負担を軽減し、学校教育を円滑に実施することができるように負担金を支出しました。 教職員の健康診断後の指導区分決定及びストレスチェックを実施しました。 ・児童生徒心臓検診業務委託(小学校1・4年、中学校1年(1,236人)委託先:(公財)三重県健康管理事業センター ・児童生徒尿検査業務委託(小中学校全学年延べ5,865人)委託先:(一財)滋賀保健研究センター ・教職員健康診断業務委託(260人)委託先:(一財)三重県産業衛生協会 ・教職員人間ドック指導区分決定業務委託料(延べ507人)委託先:上野総合市民病院、岡波総合病院、寺田病院 ・ストレスチェック(622人)委託先:公立学校共済組合 ・日本スポーツ振興センター負担金(小・中学校延べ5,275人) ・日本スポーツ振興センター災害共済給付金(災害給付件数 小学校372件、中学校392件) ・結核高蔓延国からの編入児童生徒に対する結核検査(20人)	各種健康診断・検診の受診率: 99%	各種健康診断・検診の受診率: 100%	19,488	改善	健康診断を実施し児童生徒・教職員の健康管理に努めているが、健康診断に係る周知を徹底し、未受診者減少を更に目指したい。	417	

学校教育

所 属	施 策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和5年度の取組内容)	指 標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	整理 番号	評価委員の意見
					令和5年度実績値	令和5年度目標値					
			教育振興一般 経費	自転車ヘルメット・「子どもSOSの家」旗の購入及び配布、注意喚起看板等の作成により、児童生徒の安全を確保しました。 また、教育活動の充実のため市内観光施設を利用した場合の施設入場料を負担しました。 ・児童生徒の安全対策 中学校自転車通学用ヘルメットの配布(375個) 「子どもSOSの家」旗の作成(300本) 注意喚起立看板(「あぶない」102枚、「注意通学路」55枚)の作成 ・市内観光施設利用状況(だんじり会館、伊賀上野城、伊賀忍術博物館) 小中学校9校(延べ891人) ・教育活動サポーターを配置しました。(47人)	登下校中の交通事故発生件数: 4件	登下校中の交通事故発生件数: 0件	2,346	改善	児童生徒が減少し、今までのような通学団でまとまった登下校ができなくなっている状況の中で、警察や地域のボランティア等の関係機関と連携しながら、また児童生徒が被害者にならないために交通規則順守の意識向上を図り、登下校の安全確保に努めていく。	418	
			不登校児童生徒支援事業	伊賀市教育研究センターふれあい教室において、以下の内容に取り組みました。 1 不登校児童生徒に対する適応指導活動(40日) 2 児童生徒及び保護者との教育相談活動(40回×2人) 3 不登校の実態把握 4 教育相談に関わる教職員研修を企画し4回開催 5 ふれあい教室職員の事例検討会における指導助言(心理の専門家を招聘)	不登校児童生徒の好ましい状況変化の割合: 72%	不登校児童生徒の好ましい状況変化の割合: 100%	3,339	改善	不登校児童生徒については、家庭背景等、学校のみ対応では解決に至りにくい事案もあり、校(園)長会議や生徒指導総合連携会議において、各機関の機能やより望ましい連携のあり方について周知し、指導主事が各学校に積極的に指導に入るとともに、こども家庭支援課と連携する。また、不安や悩みを抱える児童生徒の心を理解し、直接的・間接的に支援するスクールカウンセラーや児童生徒が置かれている環境(学校、家庭、地域)に働きかけるスクールソーシャルワーカー等、専門家の活用をすすめる。関係機関と連携していく。また、登校はできるものの、自分の教室に入りづらい児童生徒が、落ち着いた空間の中で自分にあったペースで学習・生活できる環境を、崇広中学校内にモデル的に設置する。	419	

学校教育

所 属	施 策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和5年度の取組内容)	指 標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	整理 番号	評価委員の意見
					令和5年度実績値	令和5年度目標値					
			就学奨励費 (小学校)	1. 学用品費、通学用品費、新入学児童学用品費、通学費、学校給食費、修学旅行費、校外活動費、学校病医療費の給付を行いました。また、市内小学校入学予定の対象児童に入学準備金を支給(52人)しました。 2. 特別支援教育就学奨励費の給付を行いました。 ただし、学校給食費無償化に伴い、学校給食費支給がないことから前年度決算額より減額となっています。	特別支援教育就学奨励費認定者数: 235人	特別支援教育就学奨励費認定者数: 250人	14,173	改善	前年度と同様に、保護者の離職や長期休業等による急激な所得の減少があった場合は、児童生徒の家庭の経済状況を考慮して認定するなど、弾力的に対応していく。	440	
			就学奨励費 (中学校)	1. 学用品、通学用品費、新入学生徒学用品費、通学費、学校給食費、修学旅行費、校外活動費、学校病医療費の給付を行いました。また、市内中学校入学予定の小学校6年生対象児童に入学準備金を支給(88人)しました。 2. 特別支援教育就学奨励費の給付を行いました。 ただし、学校給食費無償化に伴い、学校給食費支給がないことから前年度決算額より減額となっています。	特別支援教育就学奨励費認定者数: 88人	特別支援教育就学奨励費認定者数: 85人	17,325	改善	前年度と同様に、保護者の離職や長期休業等による急激な所得の減少があった場合は、児童生徒の家庭の経済状況を考慮して認定するなど、弾力的に対応していく。	450	
	子どもたちが、安心して学べる	3 学校施設整備	学校給食管理経費	※教育総務課・学校施設室へ記載							

所 属	施 策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和5年度の取組内容)	指 標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	整理 番号	評価委員の意見
					令和5年度実績値	令和5年度目標値					
給食センター	子どもたちが、安心して学べる	1 学校施設整備	給食センター管理運営経費	伊賀市では、子育て支援施策として2023(令和5)年4月から伊賀市立の小中学校で、給食費の公費負担を実現しました。そのような状況の中で、以下の3つの視点で給食センターの取組を推進します。 ①2つの給食センターの管理・運営 ・安心安全でおいしい学校給食を安定的に提供できるよう、衛生管理や食材購入、調理・配送・施設整備、維持管理を行った。(小学校給食センター元気は、PFI方式によります。) 年間給食回数:192回 1学期69回、2学期75回、3学期48回 ・いがっこ給食センター夢(2,320食/日)、いがっこ給食センター元気(2,000食/日) ②食育の推進 ・地元食材を紹介する「給食だより」の発行と市HPへの献立(食材の詳細)、食育教材の提示を毎月行った。 ・給食センターにおける調理工程や衛生管理等について学ぶため、児童の見学受け入れを行った。 ・各学校へ残食率の資料提供を行った。いがっこ給食センター夢8.6%(前年9.2%) いがっこ給食センター元気4.13%(前年3.82%) ③地場産食材の優先活用 ・物資納入業者と連携し、食材の確保や価格の調整を図りながら、地場産(伊賀・三重産)食材を積極的に使用した。 ・地場産率は、いがっこ給食センター夢64.0%(前年65.3%) いがっこ給食センター元気62.3%(前年65.6%) ※物価高騰で減少した。	学校給食の完全提供率:100%	学校給食の完全提供率:100%	558,253	改善	計画に基づき、令和5年4月、令和7年4月、令和9年4月に提供食数が増加するが、対応できている。【いがっこ給食センター元気】施設老朽化による修繕や施設整備の予算確保等、計画的に進める。【いがっこ給食センター夢】センター給食を身近なものと感じてもらうため、情報発信等を積極的に行い、食育の充実につなげ、地元食材を積極的に活用することで、給食に関心を持ってもらい、残食の減少につなげる。【両センターとも】	485	

所 属	施 策	努力目標		取組事業名	事業概要 (令和5年度の取組内容)	指 標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	整理 番号	評価委員の意見
						令和5年度実績値	令和5年度目標値					
生涯学習課・中央公民館・教育集会所	人権に対する正しい知識を習得する	1	人権啓発	同和教育研究推進事業	(1)伊賀市内の人権同和教育の充実と発展に資する目的で、伊賀市人権同和教育研究協議会及び上野社会同和教育研究会に対し、人権同和教育研究活動事業の委託を行いました。各団体と連携しながら研修会・学習会の支援を行いました。 (2)市民を対象に、部落差別をはじめとするあらゆる差別の撤廃をめざし、伊賀市内における社会教育分野で人権同和教育を推進するリーダー育成や人権に関する相談体制の充実を図るため座談会形式の人権教育学習会(年7回)や聴講型の人権教育研修会(年9回)を開催いたしました。 (3)各地域での人権課題を共有し人権同和教育を推進するためのリーダーの育成として、地域に根差した人権教育・啓発推進事業を実施しました。(6地区) (4)部落差別をはじめとするあらゆる人権課題に対する新しい情報や認識を深めるためのチラシを委託・作成し広く市民や関係団体等に啓発を行いました。	参加数:16,151人	参加数:15,000人	8,213	継続	部落差別をはじめあらゆる差別を撤廃するために、啓発や教育を社会教育分野で推進し、市と各同研の連携により、地域の状況と課題に応じたきめ細やかな事業を実施します。主体的に差別をなくす市民の動きがさらに広がるよう人権教育・啓発を進めます。	470	
	部落差別をなくす	2	隣保館・児童館・教育集会所	教育集会所管理経費	人権感覚豊かな市民を育成し、教育集会所を拠点に実施する人権講演会や地区学習会、識字教室等への参加を促進し、人権同和教育の推進にむけて部落問題をはじめあらゆる人権課題の学習や人権啓発事業の効果的な施設利用ができるように、管理運営を行いました。 具体的内容は6館の施設管理、設備点検、修繕・保守管理等で、実施に際して、予算の適正な執行と無駄を無くした経費削減、人権同和教育研究の推進と啓発活動の拠点としての利用促進をめざしました。	施設利用者数: 20,933人	施設利用者数: 20,000人	4,948	継続	部落差別解消に取り組む人権教育・啓発発信の拠点として、多くの市民が利用しやすい施設として適切な維持管理を行います。	479	
				人権教育推進事業	・小中学生地区学習会、高校生・青年友の会等の開催・活動支援を行いました。 ・識字教室、パソコン教室を開催しました。 ・地域子ども会活動の支援、地域保護者会の支援、地域青年活動の支援、地域老人クラブ活動の支援を行いました。 ・地域人権団体・地域NPO・自治会等、あらゆる世代の人権教育・啓発活動団体等と連携した人権同和教育研究活動及び人権啓発活動の支援を行いました。 ・教育集会所周辺地域住民対象の人権研修の開催、学校・教集・地域住民との連絡会議の開催、地域・周辺地域の人権同和教育推進会議(中学校ブロック)の開催、人権教育・反戦・平和等のパネル展示等を開催しました。 ・就学前から小中学校、高校、地域青年、保護者や地域住民及び周辺地域住民と共に、部落差別をはじめとするあらゆる差別の解消を目指した人権フェスティバルを開催しました。また自治協議会と共催した夏まつりで人権トーク&コンサート、人権啓発パネル展を行いました。	教育集会所を拠点とした、人権教育相談、同和教育研究・啓発活動等の参加人数: 21,980人	教育集会所を拠点とした、人権教育相談、同和教育研究・啓発活動等の参加人数: 20,000人	5,857	継続	地域周辺住民や、これからの担う子どもたちが、保護者も含め教育関係機関と連携を取りながら、人権教育推進リーダーを育成するためにより充実した人権同和教育を推進します。地域全体で人権文化の根付くまちづくりを推進します。	480	

所 属	施 策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和5年度の取組内容)	指 標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	整理 番号	評価委員の意見
					令和5年度実績値	令和5年度目標値					
			教育集会所交流事業	各教育集会所で活動する仲間が地域をこえてつながるため、そして、差別をなくすために主体的に行動するリーダーを育成するための学習会を開催しました。 【実施事業】 ・伊賀市教育集会所青年人権学習交流会 ・教育集会所高校生・青年人権学習交流会(年3回+視察研修) ・伊賀市教育集会所中学生交流会 ・伊賀市教育集会所小学生交流事業「みんなよっといで!!6年生」 ・教育集会所保護者の部落問題学習会	参加者アンケートの満足度: 100%	参加者アンケートの満足度: 100%	563	継続	小中学校地区学習会や学校の人権学習等にて、人権教育を学び続けてきた子どもたちを、中学卒業後も継続して地域の人権活動リーダーとして育成する必要があります。	481	
			同和問題啓発事業	同和問題をはじめとするあらゆる差別問題について学習機会を提供し、正しい知識を身につけるとともに、自らの課題解決のための行動を促すため、あやま人権・同和問題学習講座を3回開催しました。(開催日:6月9日、10月20日、3月8日)	参加者:269人	参加者:200人	137	継続	習講座の周知方法を工夫する。現在は、阿山同研会員及び各地区人権推進委員に学習講座の案内を郵送している。また、阿山支所及び地区市民センターにポスター・チラシを設置しているが、さらにチラシを各所で回覧する等、工夫していきます。	471	
			成人式開催経費	*新成人が主体的に関わり成人式の運営に参画いただけるよう、実行委員を募集しました。 【新成人実行委員 5人】 【令和5年5月4日(木・祝) 午後1時 伊賀市文化会館】 【対象者 761人、参加者 604人】	新成人の参加率: 79.37%	新成人の参加率: 80%	1,971	継続	地域全体で新成人を祝うことで、新成人としての自覚を促し、社会の構成員として活動していくよう啓発します。	458	
生涯を通じ、生きがいを持ち活躍できる	3	生涯学習	社会教育推進経費	社会教育委員12人(任期:令和5年7月1日～令和7年6月30日) 伊賀市社会教育委員定例会(2回)及び懇談会(3回)を開催しました。 三重県社会教育委員連絡協議会が主催する研修会・講習会等に参加しました。 令和5年5月4日に開催した成人式の実行委員会への参画、当日の運営に協力しました。 家庭教育事業として、子どもについて一緒に考える集い「いがファミリーフェスタ」を開催しました。 公民館運営審議会委員13人(任期:令和5年7月1日～令和7年6月30日) 伊賀市公民館運営審議会(1回)を開催しました。	社会教育委員会での協議案件数: 3件	社会教育委員会での協議案件数: 3件	758	継続	委員の提言・助言によって、生涯学習・社会教育に関する事業の見直しなどを行っています。	459	

所 属	施 策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和5年度の取組内容)	指 標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	整理 番号	評価委員の意見
				令和5年度実績値	令和5年度目標値						
			生涯学習推進 啓発事業	1. 中央公民館主催事業 (1)主な講座・教室・その他事業 ・悠々セミナー、はじめての講師サポート事業、子どもと保護者の体験教室、子どもと保護者の創作活動、読み聞かせボランティア入門講座、伊賀・山城南・東大和定住自立圏連携事業講演会、地域出前講座、干支の春展他 (2)開催回数及び参加人数 【開催回数】34回 【参加延べ人数】1,372人 2. 各地区市民センターを活動拠点とした事業(共催事業を含む) (1)主な講座・教室・その他事業 ・夏休みこども俳句教室、伊勢型紙教室、健康講座、文化祭、世代間交流事業他 (2))開催回数及び参加人数 【開催回数】605回 【参加延べ人数】41,511人	住民自治協議会への委託事業における重点事業の実施割合: 69.2%	住民自治協議会への委託事業における重点事業の実施割合: 100%	38,321	継続	住民自治協議会への生涯学習活動事業委託において、4つの分野(①安全・防災・防犯、②健康・福祉、③環境美化、④人権教育)を重点事業に位置づけ、必ずそれぞれの分野から1事業以上実施するように努めることとしています。各地域の状況を踏まえ、住民自治協議会の部会や委員会の事業として、あるいは生涯学習支援員の企画事業として必ず実施するよう、促していきます。	460	
			たわらや維持 管理経費	*初瀬街道にまつわる文化財「参宮講看板」の保存、地域住民の交流の場として、管理運営業務を実施しました。 【延べ来館者数 629人】	来館者数: 629人	来館者数: 2,000人	352	継続	公共施設最適化計画を踏まえて利活用の方向を模索して行きます。	461	
	4	青少年健全 育成	青少年健全育 成事業	*第16回「輝け！いがっ子フォトコンテスト」を実施し、輝け！いがっ子検証を周知・啓発しました。 *伊賀市青少年ネットワークづくり研修会・伊賀地区こどもわかもの育成支援のための研修会等を開催しました。 *青少年健全育成推進大会を開催しました。 *伊賀市青少年育成市民会議の活動を補助し、伊賀市全域を対象とした事業および各地区の特色を生かした事業の実施を支援しました。 *青少年非行防止活動強化月間(7月)、子ども・わかもの育成支援強調月間(11月)、未成年者喫煙防止キャンペーンとして、青少年健全育成市内一斉活動を実施しました。	青少年健全育成推 進大会参加者数: 124人	青少年健全育成推 進大会参加者数: 150人	1,957	改善	伊賀市として一体化した事業を実施するとともに、各地域において特色ある事業の実施ができました。今後も各地域での取り組みを尊重するとともに、青少年健全育成に係る指導者や担い手の確保に努めます。	472	
			放課後子ども 教室推進事業	*放課後子ども教室(市内4か所)への委託及び支援を行いました。 【延べ実施回数 204回】、【延べ参加者数 900人】 *伊賀市放課後子どもプラン施策検討委員会を開催しました。【日時 令和6年2月8日(木) 午後2時】	平均利用児童数: 4人	平均利用児童数: 18人	2,165	継続	*放課後子どもプラン施策検討委員会では、放課後児童クラブとの一体型や連携型の実施について協議しました。 *新規開設の相談があった場合は支援を行います。	473	

所 属	施 策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和5年度の取組内容)	指 標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	整理 番号	評価委員の意見
					令和5年度実績値	令和5年度目標値					
			学校支援地域本部推進事業	柘植中学校区地域未来塾運営協議会に対し学習支援事業にかかる業務委託を行いました。 事業内容 小学生:毎週金曜日の午後4時から午後5時 中学生:毎週火曜日の午後7時30分から午後9時	学習時間:96h	学習時間:85h	575	継続	生活困窮世帯を含めた小・中学生の学習支援がさらなる進路保障につながるよう、関係機関が連携して必要としている児童生徒への呼びかけと協力してくれる人材の確保が必要です。	474	
			青少年センター運営経費	(1)街頭補導活動の実施 ①随時補導(238回)、定時補導(47回)、警察少年指導委員特別街頭補導(11回)、少年警察協助力員補導(10回) ②学校や警察からの不審者・事件情報や各青少年市民会議等からの要請に応じ、児童・生徒の登下校時にパトロールを実施しました。また、不審者情報や保護者等からの要請に合わせた巡回により、児童・生徒の安全な登下校をサポートしました。 ③学校の長期休業時には随時補導を計画的に実施しました。祭礼など市民的行事の際には特別補導を行い、問題行動や不良行為の未然防止と減少に努めました。 (2)青少年相談活動の実施 市広報などを通して、電話や面談による青少年相談活動の周知に努めました。また、青少年が抱える悩みを解決するため、他のサポートセンターと連携し、適切な指導・助言・支援に努めました。 (3)環境浄化活動の実施 街頭補導にあわせて、青少年に有害な環境点検を行いました。書店や遊技場関係者に依頼し、有害図書・玩具など取り扱いについて協力を得ることができました。	巡回補導活動回数:306回	巡回補導活動回数:310回	480	継続	関係機関や関係団体と連携し、計画的に街頭補導活動と環境浄化活動を実施しました。街頭補導活動については、状況に合わせた内容に変更するなどの改善が必要です。青少年相談窓口を気軽に利用できるよう、周知方法を検討します。	475	

所 属	施 策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和5年度の取組内容)	指 標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	整理 番号	評価委員の意見
					令和5年度実績値	令和5年度目標値					
文化財課	歴史や文化遺産を守り、未来へと引き継ぐ	1 文化財保護	文化財保存経費	・伊賀市文化財保護審議会(2回)を開催しました。 ・指定文化財などの調査・管理を行いました(調査:63件)。 ・史跡の草刈など環境整備業務、樹木剪定伐採業務を実施しました。 ・国史跡上野城跡高石垣の定点観測測量業務を実施しました。のはなしょうぶ群落管理業務を実施しました。 ・文化財保存事業の普及・啓発活動として、『広報いが』に「伊賀市の文化財」(6回)を掲載した。文化財年報を作成しました。(300冊) ・文化財説明看板「市指定 大村神社の梵鐘」(1基)設置、哀園森の文化財看板(1基)の修繕を実施しました。	指定文化財の調査管理: 63件	指定文化財の調査管理: 72件	7,305	充実	県内最多の指定文化財がある当市では未指定の文化財も多い。指定候補の文化財の調査を進めるとともに、指定文化財を適切に維持管理し、その価値の維持に努めます。	461	
			文化財保存事業	・所有者等が行う指定文化財の保存修理や指定文化財管理事業経費に対し、補助金を交付しました(15件)。 【補助事業名】 ・国重文 町井家住宅主屋・書院 ほか3件(猪田神社、高倉神社、大村神社) 防災設備保守点検事業 ・国重文 木造日光月光菩薩立像 防災設備事業 ・国重文 町井家住宅主屋及び書院 保存修理事業 ・国重無民 上野天神祭のダンジリ行事 民俗文化財保存修理事業 ・国重無民 上野天神祭ダンジリ行事 保存管理事業 ・国重無民 勝手神社 神事踊保存継承事業 ・県指定有形 猪田神社本殿 防災施設整備事業 ・県指定有形 西蓮寺紙本墨書真盛自筆消息 保存修理事業 ・県指定有形 観菩提寺木造多聞天立像保存修理事業 ・県指定史跡 真盛廟保存整備事業 ・市指定有形 西町集議所付属屋保存修理事業 ・市指定史跡 芭蕉翁故郷塚保存修理事業	指定文化財の保存修理等事業: 89%	指定文化財の保存修理等事業: 44%	7,679	充実	県内最多の指定文化財がある当市では、修理を必要とする文化財も多い。所有者及び国・県と協議・調整を行い、適切に保存修理事業を進めます。	462	

所 属	施 策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和5年度の取組内容)	指 標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	整理 番号	評価委員の意見
					令和5年度実績値	令和5年度目標値					
			文化財等保存 管理施設維持 管理経費	・伊賀市内に所在する埋蔵文化財包蔵地について、開発事業に伴い立会・試掘等の調査(33件)を実施し、出土した遺物の整理を行うとともに、調査内容を伊賀市文化財年報に掲載しました。 ・また、これまでの発掘調査で出土した遺物等について、県内外の博物館等における展示や資料閲覧希望者に対し、資料の貸し出し・閲覧対応を行いました。資料収蔵庫機能を担う「阿山ふるさと資料館保管庫」、「柘植資料保管庫」の管理を適切に行いました。 ・埋蔵文化財緑ヶ丘整理所の西側建物の石綿含有調査を実施しました。 ・資料保管庫の統合に向けて、阿山ふるさと資料館保管庫内の民俗資料及び考古資料を移動しました。 ・歴史資料系の事務所(旧長田小学校)の維持管理、環境整備を適切に行いました。 ・大山田郷土資料館では、収集された民俗資料や考古資料を保管し、観覧が可能なように施設の維持管理を行いました。地元のボランティア団体「大山田郷土の広場」と協同し、企画展(2回)及び講演会、オオサンショウウオ観察会(1回、12名参加)を実施しました。	発掘調査成果の報告: 1件	発掘調査成果の報告: 1件	5,688	充実	埋蔵文化財整理所及び資料保管庫に収蔵する資料が増加し、収蔵量にゆとりがなくなっています。資料を保管する場所・施設を確保し、適切に保存・管理し活用できるように努めます。	464	
			伊賀市文化財 保存活用地域 計画策定事業	・伊賀市文化財保存活用地域計画の最終版を文化庁に認定申請し、令和5年7月に文化庁長官より認定を受けました。認定後に計画書データを市HPに掲載し、報道発表を行いました。伊賀市文化財保存活用地域計画協議会(1回)を開催し、計画の進捗方法や、計画の概要版作成について協議しました。 ・計画については、計画書冊子(200部)及び概要版(2,000部)を作成し、関係機関等へ配布し、計画内容の周知を図りました。	伊賀市文化財保存 活用計画の作成状 況: 100%	伊賀市文化財保存 活用計画の作成状 況: 100%	1,230	完了		468	
			民間等受託発 掘調査経費	・令和5年度は、開発行為にともなう本発掘調査は行われませんでした。伊賀市各地の埋蔵文化財包蔵地における開発行為に伴う試掘調査、立会調査を行い、その結果を伊賀市文化財年報で報告しました。	—	発掘調査進捗状 況: 100%	0	継続	今後も開発事業に伴う発掘調査に際し、民間業者を適切に指導、監督できる体制の構築に努めます。	465	

所 属	施 策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和5年度の取組内容)	指 標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	整理 番号	評価委員の意見
					令和5年度実績値	令和5年度目標値					
	2	文化財の活用	文化財施設維持管理経費	・旧崇広堂・旧小田小学校本館・入交家住宅・城之越遺跡の指定管理者を指定し、文化財施設として保存管理するとともに、指定管理者により、下記の各種事業を実施し、文化財の活用を図りました。 ・指定管理者：(公財)伊賀市文化都市協会 【旧崇広堂】「石原健哉花火写真展 世界に羽撃く」「光のART展Ⅸ」「すうこうどう寄席Vol.28・29」「大平和正 × 中村ミナトー磁場の共振ー」「生活工芸展2023」「真夏の夜のステンドグラス展Ⅴ」「刀絵百鬼丸展」「玉田玉秀斎講談 忍者の物語」「伊賀陶芸展」「チェンパロの魅力 ～ 標題付き音楽で味わう～」 【旧小田小学校本館】「旧小田小学校本館企画展 思い出の図工室展」「子ども陶芸体験」 【入交家住宅】「日本画で魅せる季節のうつろい 第二章」「大平和正 風還元/茶碗 一茶碗は彫刻Ⅵー」「生活工芸展2023」「和紙と墨と筆と」(2回) 【城之越遺跡】「気軽に楽しく！古代遺跡で！グラウンドゴルフ！城之越遺跡Springカップ2023、Autumnカップ2023」	来場者数合計：14,260人	来場者数合計：20,000人	24,868	充実	貴重な文化財を将来に引き継ぐため、適切に保存するとともに、イベント等の開催など、積極的な活用に努めました。	463	
			国史跡伊賀国庁跡保存整備事業	・平成26年度・27年度に策定した「史跡伊賀国庁跡保存整備活用基本計画」に基づき、平成30年度に「史跡伊賀国庁跡保存整備事業基本設計」、令和元年度に「史跡伊賀国庁跡保存整備事業実施設計」を策定した。令和2年度から実施設計をもとに本体工事に着手しました。 ・これまでの整備事業で、史跡伊賀国庁跡保存整備事業指導委員会による指導・助言を得ながら整備区域の敷地造成、雨水排水施設の整備、園路整備等を実施し、史跡標柱の設置、整備区域中央部分のブロック舗装、芝張り、給水設備の設置を行いました。 ・令和5年度は、正殿の擬木丸太(23本)による柱の半立体復元を行いました。また、史跡伊賀国庁跡保存整備事業指導委員会(1回)を開催し、指導・助言を得ました。	整備事業の推進：65%	整備事業の推進：75%	5,417	継続	「史跡伊賀国庁跡保存整備事業実施設計」に基づき、有識者に指導を得ながら着実に整備を進めます。	467	
	3	歴史まちづくり	歴史的風致維持向上計画進捗管理事業	・平成28年5月19日に認定された「伊賀市歴史的風致維持向上計画」に基づき、歴史的風致の維持向上を図るため実施している3カ所の重点区域(上野城下町、初瀬街道阿保宿、大和街道島ヶ原宿)について、関係各課が実施する個別事業の進捗管理を行い、庁内会議を1回、協議会を2回開催しました。中部地方整備局管内の認定市町(18市町)との連携事業検討会(3回)や歴まちサミット(名古屋市)に参加し、意見交換を行いました。 ・重点区域の一つ、初瀬街道阿保宿について、啓発用パンフレット(1000部)の印刷と街道案内看板(1基)を設置しました。 ・歴史的風致形成建造物の調査を実施しました(数馬茶屋、伊賀越資料館(旧武徳殿)、大村神社本殿、越山家住宅ほか)。	進行中事業数：11件	進行中事業数：13件	1,005	継続	「伊賀市歴史的風致維持向上計画」に掲載した事業について、協議会委員の意見を踏まえ、庁内関係課と調整しながら着実な進捗を図ります。	466	

所 属	施 策	努力目標		取組事業名	事業概要 (令和5年度の取組内容)	指 標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	整理 番号	評価委員の意見
						令和5年度実績値	令和5年度目標値					
		4	歴史資料の 整理・保存・ 管理	歴史資料保存 管理経費	・市内外の所蔵者より申し出を受けて歴史資料31件を調査・収集し、目録を18件作成しました。 ・事業の普及・啓発活動として、『広報いが』に「伊賀の歴史余話」(6回)を掲載しました。また、調査・収集した歴史資料を用いてハイトピア伊賀や上野図書館で企画展示を行い、芭蕉翁記念館の展示図録への寄稿などを実施しました。 ・収集・保管する歴史資料について99件の利用申請があり、資料に対するレファレンスや複写資料の提供、展示会へ出品しました。	『伊賀市史』各編などの有償・無償配布数: 48冊	『伊賀市史』各編などの有償・無償配布数: 80冊	437	充実	資料の寄贈申込、資料に関する問い合わせが増加傾向にあります。貴重な資料を適切に整理保存するとともに、その価値を広く周知する機会の充実に努めます。	469	

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和5年度の取組内容)	指 標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	整理 番号	評価委員の意見
				令和5年度実績値	令和5年度目標値						
上野図書館	生涯を通じ、生きがいを持ち活躍できる	1	図書館活動	図書館管理経費 ・運営業務を、(公財)伊賀市文化都市協会に委託し、市民の生涯学習の場として、蔵書や資料の充実を図りつつ、市民ニーズに応えるとともに、資料提供・情報発信に努めました。・配送サービスや市外及び県立図書館等との相互貸借を行う中で、図書館の利便性向上と利用促進を図りました。・点字図書、録音図書を紹介したパネル展示や大活字本、布絵本の特集展示等により上野点字図書館のサービス内容を周知し、活字を読むことが困難な方などすべての人に読書の楽しみを知ってもらえるよう情報発信を行いました。・夏休みには未就学児から小学生を対象とした「夜のとしょかん探検」事業を実施し、楽しみながら図書館の使い方などを学ぶ機会を設けるとともに、市内小学校による施設見学の受け入れにより、図書館と本を身近に感じてもらい、読書に親しむ機会づくりを行いました。・第19回読書感想文コンクールを実施するとともに、市内小中学校の学校図書担当教諭を対象とした研修会への担当職員派遣による連携強化や上野図書館から市内小中学校へのセット文庫の定期配送を行い、学校図書館の蔵書とは違った本を届けることで本に興味を持ってもらう取り組みを行いました。・「郷土の歴史夜咄会」を6、7、8、9、10、11、12月の第3金曜日(10、11月は第2金曜日)に開催し、市民が伊賀の歴史を学ぶ機会をつくりました。・「デジタルミュージアム 秘蔵の国 伊賀」の更なる活用を目的として、市内小中学校の郷土教育担当教諭を対象とした研修会で郷土学習へのデジタル資料の利用についてPRを行いました。	貸出冊数(分館含む): 297, 116冊	貸出冊数(分館含む): 340, 000冊	87,250	充実	入館者数の拡大、読み聞かせボランティアの後継者育成、など読書推進のための課題があり、引き続き蔵書やレファレンスなど図書館機能の充実やボランティアの支援に努めます。 また、「いがし電子図書館」や「デジタルミュージアム 秘蔵の国 伊賀」の利用を広くPRするとともに、SNSの活用など情報発信を行い市民の利便性向上に努めます。	479	
			図書室運営管理経費	・上野図書館分館となる各図書室では、「図書室だより」等により新着図書やおすすめ図書の紹介、読み聞かせ会等の情報発信を行い、それぞれの地域の特性を活かした図書室運営を行うとともに、上野図書館との連携を進める中で、各図書室の利用促進に取り組みました。・図書館情報システムの運用や配送サービスにより、各図書室で市内全域の図書館・図書室からの資料(本)の取り寄せや返却を継続して行うことで、利便性の向上に取り組みしました。(配送冊数:25,963冊)・上野図書館所蔵本の一時的移管を行い、各図書室での特設コーナーの設置により利用促進に取り組みました。・各図書室で除籍後一定期間を経たリユース本について、図書室間でのリユース本の交換を行うことで、多くの方にリユースされるよう取り組みました。(リユース本:691冊)・いがまち図書室の移転開館により、DMG森精機株式会社と連携したサービスを行うことで、利便性向上と利用促進を図りました。	貸出冊数(本館含む): 297, 116冊	貸出冊数(本館含む): 340, 000冊	14,577	充実	上野図書館との連携などにより、利用者の利便性向上に努めます。 図書館機能の再編を円滑に進め、継続した図書館サービスを行います。	480	

所 属	施 策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和5年度の取組内容)	指 標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	整理 番号	評価委員の意見
				令和5年度実績値	令和5年度目標値						
	2	子ども読書活動	図書館管理経費	・運営業務を、(公財)伊賀市文化都市協会に委託し、市民の生涯学習の場として、蔵書や資料の充実を図りつつ、市民ニーズに応えるとともに、資料提供・情報発信に努めました。・配送サービスや市外及び県立図書館等との相互貸借を行う中で、図書館の利便性向上と利用促進を図りました。・点字図書、録音図書を紹介したパネル展示や大活字本、布絵本の特集展示等により上野点字図書館のサービス内容を周知し、活字を読むことが困難な方などすべての人に読書の楽しみを知ってもらえるよう情報発信を行いました。・夏休みには未就学児から小学生を対象とした「夜のとしょかん探検」事業を実施し、楽しみながら図書館の使い方などを学ぶ機会を設けるとともに、市内小学校による施設見学の受け入れにより、図書館と本を身近に感じてもらい、読書に親しむ機会づくりを行いました。・第19回読書感想文コンクールを実施するとともに、市内小中学校の学校図書担当教諭を対象とした研修会への担当職員派遣による連携強化や上野図書館から市内小中学校へのセット文庫の定期配送を行い、学校図書館の蔵書とは違った本を届けることで本に興味を持ってもらう取り組みを行いました。・「郷土の歴史夜咄会」を6、7、8、9、10、11、12月の第3金曜日(10、11月は第2金曜日)に開催し、市民が伊賀の歴史を学ぶ機会をつくりました。「デジタルミュージアム 秘蔵の国 伊賀」の更なる活用を目的として、市内小中学校の郷土教育担当教諭を対象とした研修会で郷土学習へのデジタル資料の利用についてPRを行いました。	貸出冊数(分館含む): 297, 116冊	貸出冊数(分館含む): 340, 000冊	87,250	充実	読み聞かせボランティアの後継者育成が課題となっており、ボランティアの支援や連携に努めます。 学校図書館との連携においては、研修会等を通じて図書室担当教諭と情報を共有し、継続して支援を行います。	479	